

豊能定例会議

- 10:00～ 《代表理事より》
- ・ 新規入会紹介 ウエルグループ
 - ・ セミナー関連
 - ・ 合同審査会報告
 - ・ 各省庁への提案書

- 《事務局より》
- ・ 原課Meetingなどの運用
 - ・ 議事録の確認
 - ・ 次回現地開催は、23日（木）の予定

- 10:30～ 《分科会（45分）》
《各分科会進捗報告（15分）》

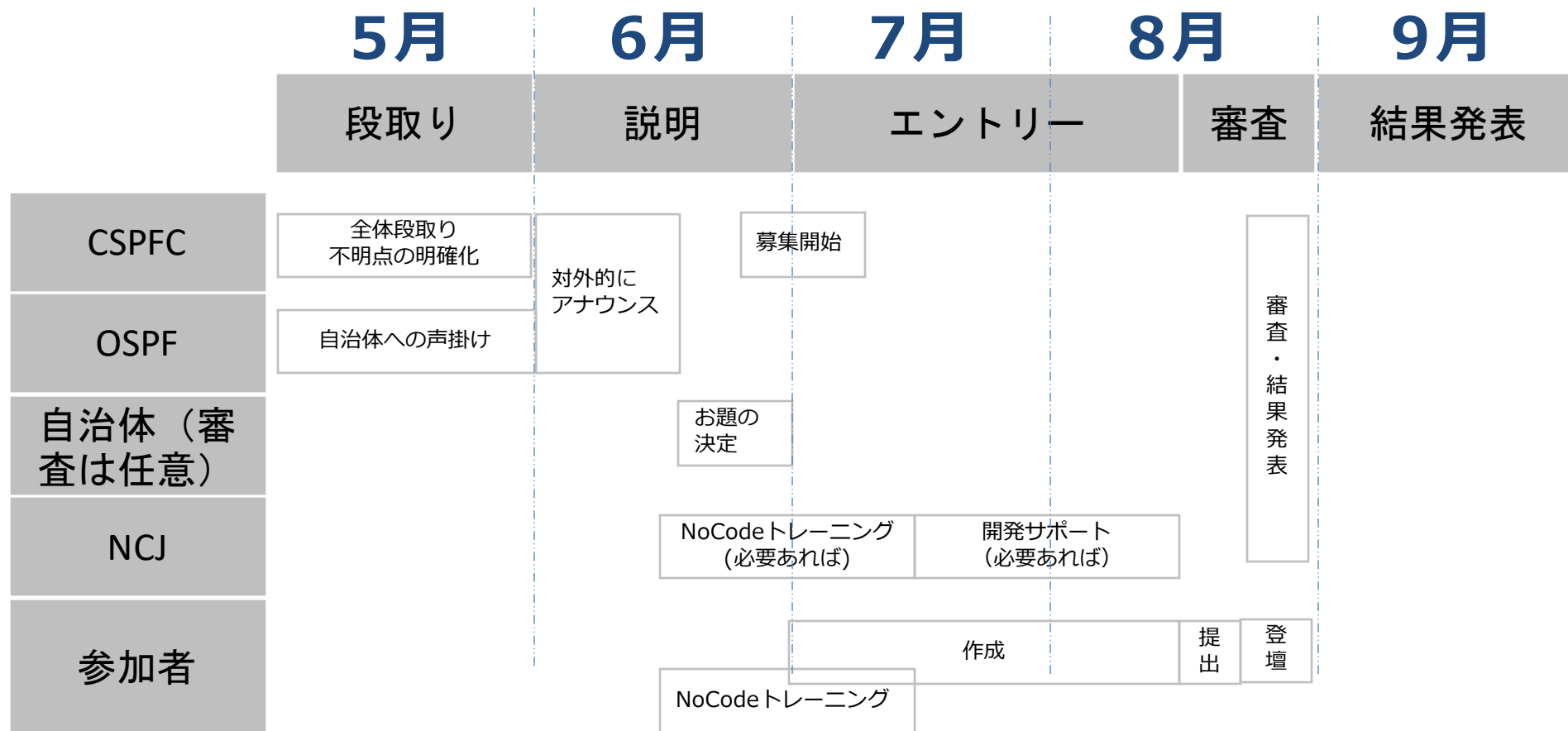
今後のスケジュール

- ・ 6月10日（金） セミナー開催
- ・ 8月 スマートシティ・データ利活用～ノーコードを用いた地域課題解決

スマートシティ・データ利活用

ノーコードを用いた地域課題解決

全体の流れと役割



6/10 午前 OSPCコーディネータ企業発表会
午後 CSPFC取組報告会

- 基調講演ABC
- 13:00-13:30
- CSPFC
- 13:30-13:50
- 見守り
- 14:00-14:20
- ヘルスケア
- 14:20-14:40
- 教育
- 14:40-15:00
- 観光
- 15:00-15:20
- 地域経済
- 15:20-15:40
- モビリティ
- 15:40-16:00
- 行政
- 16:00-16:20
- 防災
- 16:20-16:40
- 閉会

「コンパクトスマートシティ社会実装 セミナー」詳細

日時：6月10日（金）

場所：QUINT BRIDGE

時間：午後13:30～、午前中はOSPF成果報告会

概要：基調講演、コンパクトスマートシティ構想、企業説明

主催：CSPFC

共催：OSPF

後援：近畿総合通信局

申込フォームを後日お知らせしますので、
参加希望される方は、申込をお願いします。

現地100名

オンライン100名

コンパクトスマートシティ 社会実装セミナーのご案内



趣旨・目的

スマートシティ事業を展開するにあたっては、様々な業界や関係者との協調・連携が必須であり、特に、自治体、地域住民の方々のニーズとマッチした取組が不可欠です。

昨年度、大阪府豊能町を実証フィールドとして実証・実装したスマートシティ事業におけるサービスの実装内容や今後のスマートシティ事業展開に関して、CSPFC 代表理事並びに提供企業から説明を行い、スマートシティに対する理解促進、公民連携の枠組み形成支援等を目的に、スマートシティを推進する自治体、企業等を対象にセミナーを開催します。

開催日時

令和4年6月10日（金） 13:30～

場所

QUINTBRIDGE 大阪府大阪市都島区東野田町 4-15-82

参加者

地方自治体、大学、スマートシティ関連企業 ほか 100名程度

内容（予定）

開会案内	13:30-13:35	事務局	
ご挨拶	13:35-13:45	近畿総合通信局長	ご挨拶
CSPFC	13:45-14:15	CSPFC 代表理事	全体
見守り	14:15-14:35	NESIC ICタグ、カメラを使った見守り。今後スマホが基地局になり見守り方進化	
ヘルスケア	14:35-14:55	ヘルスラボ・I&H	ヘルスラボ、今後地域薬局との連携
休憩	14:55-15:00		
教育	15:00-15:20	とよのていねい・NoCodeJapan	スマホ教室・NoCode トレーニング
観光	15:20-15:40	おてつたび	おてつたび・今後地域ポイントやオンデマンド交通連携
地域経済	15:40-16:00	Digital Platformer	とよのんウオレットから、他自治体での共有化
モビリティ	16:00-16:20	ドコモ	人流・交通分析からのオンデマンドへの模索
行政	16:20-16:40	NESIC/ISID	手続きナビ・今後電子申請/内部行政手続きのデジタル化
防災	16:40-17:00	三井住友海上/ITSCOM	避難訓練 TVP 使った防災・今後 TV 活用した他サービスへの拡充
閉会	17:00		

主催・共催・後援

主催：一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会（CSPFC）

共催：大阪スマートシティパートナーズフォーラム（OSPF）

後援：近畿総合通信局

総務省

JP-LINKアクセス数報告： 毎月末報告お願いします。
(総務省側もチェック入ります)

合同審査会

内閣府

総務省

→QA対応中

R3 広域化もCSPFCの役割なので、広域化のためのシステム改修はNG

データ連携基盤そのものにかかわる予算もNG

大阪府との建付け（同じ予算枠に同じ自治体の申請は説明がつかない）

→CSPFCはORDENの一機能として横展開

* デジ田関連： 豊能町のアセットになるものやサービスはデジ田
ツールや横展開向け取組みは総務省

国土交通省 都市局

→先進性が分かり辛い。まだ有識者の反応が分からないが、磨けば来年度予算採択

未参加

経産省： 車体

国交省 総政： ツール

→未参加なので、採択見送りの可能性あり。別途予算調整

提案タイトル	コンパクトスマートシティパーク データダッシュボード
提案者	活用技術
大阪府豊能町（共同提案）	AI、IoT、クラウドコンピューティング、ビッグデータ、キャッシュレス・ブロックチェーン

■ 背景・課題

目指す将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・移動がスムーズでスマートシティサービスを介して住民のQoLの向上 ・住民全体が健康で子育てしやすいスマートシティ
解決すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の赤字改善、住民不満(50%以上)の改善 ・少子高齢化が進み高齢者の健康維持、高齢者を支える若者の生活環境の改善

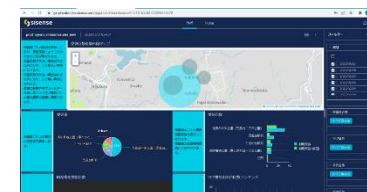
■ 実装を目指す主な事業内容

○事業: マルチモビリティ・マルチサービス事業

活用技術	事業概要
AI運行バス 人流交通分析 データ連携基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIを活用してオンデマンド交通を活用して公共交通の赤字低減 ・ 人流・交通のデータ分析を行い最適な移動手段の配備 ・ 健康相談イベントや観光でのシームレスな予約サービス

○事業: スマートシティ住民行動変容事業

活用技術	事業概要
キャッシュレス ブロックチェーン データ連携基盤 データ連携基盤ダッシュボード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域通貨・ポイントとして商店でのキャッシュレスから始まり、健康増進ポイント、地域清掃ポイントなど行動変容に繋がるサービスとスマートシティサービスを受けるためのポイントに活用し地域経済活性化 ・ データ連携基盤から住民の様々なアクティビティを可視化を行い、より住民のQoLがあがる政策・施策を行える環境を整備



住民を見守るデータダッシュボード

■ 事業の目的・目標

1. 事業の目的

<地域の現状・課題>

豊能町では人口が2万人を下回り、65歳以上の高齢者が人口全体の1/3になり、山を切り開き街を作っている為、道の多くは坂道です。高齢者が移動困難で買い物や通院など生活が難しく、また若者は結婚など環境変化に伴い地域外に引っ越しし若者も減少している。

<事業の概要>

コンパクトスマートシティプラットフォームの活用促進と、豊能町と同じ課題を抱える自治体へのスマートシティ化促進を行います。

<事業の目的・効果>

データ連携基盤を活用し住民リクエストの多いヘルスケア、モビリティ、見守り、子育てを中心にサービスの拡充を行い、他自治体への転用を行います。また地域通貨・ポイントを活用し住民の行動変容を促し、フレイル対策や地域活性化に繋がる政策とNoCodeトレーニングによる地域IT活用人材育成と地域課題の解決を行っていきます。

<ニーズ調査の結果と事業に反映した内容>

令和3年度のスマートシティに対する住民アンケートに基づき、住民希望サービスとしてヘルスケア(27%)、交通・移動(21.7%)、見守り(11.3%)、子育て(8.3%)を中心にサービス拡充を行います。ヘルスケアは大手と地域薬局の連携を行い健康相談を行う環境の整備、交通ではオンデマンド交通の配備検討、健康相談と組み合わせ使える環境の整備、見守り、子育てはリビングラボを中心に時間ができる親にオンライン教育や就労の斡旋できる環境の整備などを事業として、他自治体とも連携を行います。

2. 達成目標 (KPI)

	指標	事業終了後5年後(R9)の達成目標値	事業終了年度(R4)の達成目標値	現状値	目標設定の出典(あれば)
1	アプリ利用数	「豊能スマートシティアプリ」利用者10,000人を目指します。	「とよのんコンシェルジュ」利用者2000名を目指します。	現状スマートシティサービスが無い スマホが使えない高齢者が多い (デジタルデバйд教育) 現在、サービス利用者900人	
2	アンケート満足度	子育て世代の住民満足度をアンケートで確認し8割の満足度を目指します	子育て世代の住民満足度をアンケートで確認し5割の満足度を目指します	利用希望2割で満足度調査未実施	
3	サービス利用者数	健康相談サービス利用者 500人/年	豊能ヘルスラボを活用し地域調剤薬局と連携し、15人/月の健康相談利用を目指します。	高齢化が進みヘルスケア問題が顕在化し保険料が増加傾向で財政が厳しい状況にある	
4	サービス利用者数	町外住民が「おてつたび」を利用して、バイト(農業支援など)と宿泊を20人/年を目指します	町外住民が「おてつたび」を利用して、バイト(農業支援など)と宿泊を10人/年を目指します	受入れ先2か所/利用人数4名	
5	財務指数、アンケート満足度	年間赤字を2000万円以下にし不満度を30%に低減を目指します。	利用者不満度を50%に低減を目指します。	年間6000万円の公共交通赤字があり、利用者の不満度は69.6%	
6	CSPF導入自治体数	30自治体への展開	3自治体への展開	CSPF利用が豊能町のみ	

非表示

■ 活用するデータとサービス

【具体的なサービス等の詳細】 R3年度に実装したサービスをベースとして以下拡張しデータ活用の促進を行います。

A) AIオンデマンド交通

＜都市OSとの連携＞

あり

＜地域の抱える課題＞

- ・公共交通は住民の5割が不満を抱え、赤字交通維持経費として6千万円/年出している。
- ・高齢化が進み坂道の多い地区の為、住民の移動困難者が増える傾向にある。

＜サービスの詳細説明＞

- ・交通・人流を分析し、最適交通設備の分析します。
- ・AIオンデマンド交通で、予約サービスとの連携し、利用者の状況に合わせて配車を行います。

B)ヘルスケア（健康相談）

＜都市OSとの連携＞

あり

＜地域の抱える課題＞

- ・高齢化が進み保険料が増加傾向にある。
- ・コロナ禍で住民も健康に不安を感じており、8割近くが気軽に健康相談できる環境を望んでいる。

＜サービスの詳細説明＞

- ・調剤薬局を中心に保健師、管理栄養士などヘルスラボを活用して健康相談（オン/オフライン）を行う。
- ・AIオンデマンド交通で、対面相談と連携します。

C)地域通貨・ポイント

＜都市OSとの連携＞

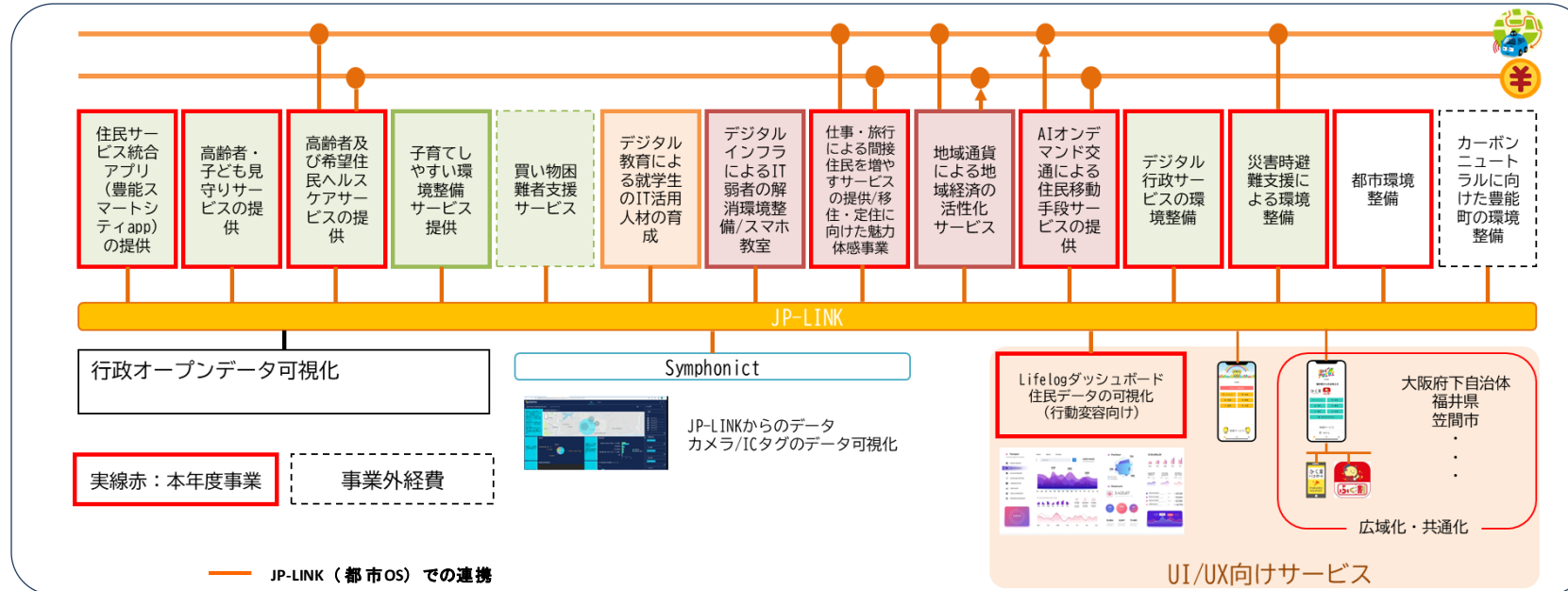
あり

＜地域の抱える課題＞

- ・地域経済循環率38.2%で大阪最下位レベルである。
- ・高齢者含めてキャッシュレスに不安を抱えている。

＜サービスの詳細説明＞

- ・キャッシュレス促進し地域商店での活用します。
- ・ヘルスケアやウォーキングポイント、清掃ポイントなど住民の行動変容に向け活用します。



D)ダッシュボード（詳細次頁）

＜都市OSとの連携＞ あり

＜地域の抱える課題＞ 住民の行動変容の可視化を把握し辛い。

＜サービスの詳細説明＞

- ・ダッシュボードで住民のデータを可視化します。（住民が自分の状態を把握）

セキュリティはR4年7月協議会内にセキュリティ委員会を立ち上げ、スマートシティセキュリティガイドラインに合わせて運用を行います。

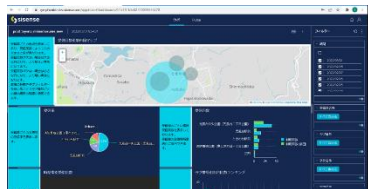
（R3年度は各社からの申告をベースに運用）（詳細次頁）

■ 活用するデータとサービス

【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組

各ステークホルダーがデータを活用する環境を構築することで、地域、個人、企業の課題を迅速に解決環境の整備

R3 Symphonict BIツール



R3年度はBIツールにてアセットの可視化のみ

ICタグやカメラデータをSymphonictで可視化するBIツールを配備済み。

BIツールのデータを含めて企業やスマートシティサービス利用者でデータ活用を推進します。

(現在、豊能町役場のみ利用可能な状態)

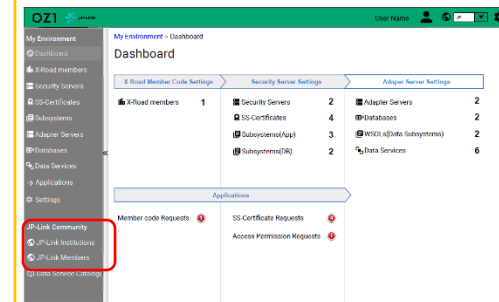
(新) 住民向けダッシュボード



利用者が自分の状況を把握できるダッシュボードを構築し、行動変容を促します。

自治体スマートシティアプリ（とよのんコンシェルジュ）から自分状況が確認できるようになります。
例：運動量、移動距離、サービスの利用状況など可視化、地域ポイントの利用状況など

企業向けダッシュボード



JP-LINKポータル（JP-LINKインストールコンソール）にJP-LINKコミュニティを構築し、参加企業のサービスや提供データの可視化、データ利用規約に対する許諾申請を行いデータ活用をよりスムーズに行います。

(現状)
企業同士が相談して、どのデータを開示するか相談したうえで接続しています。



■ 活用するデータとサービス

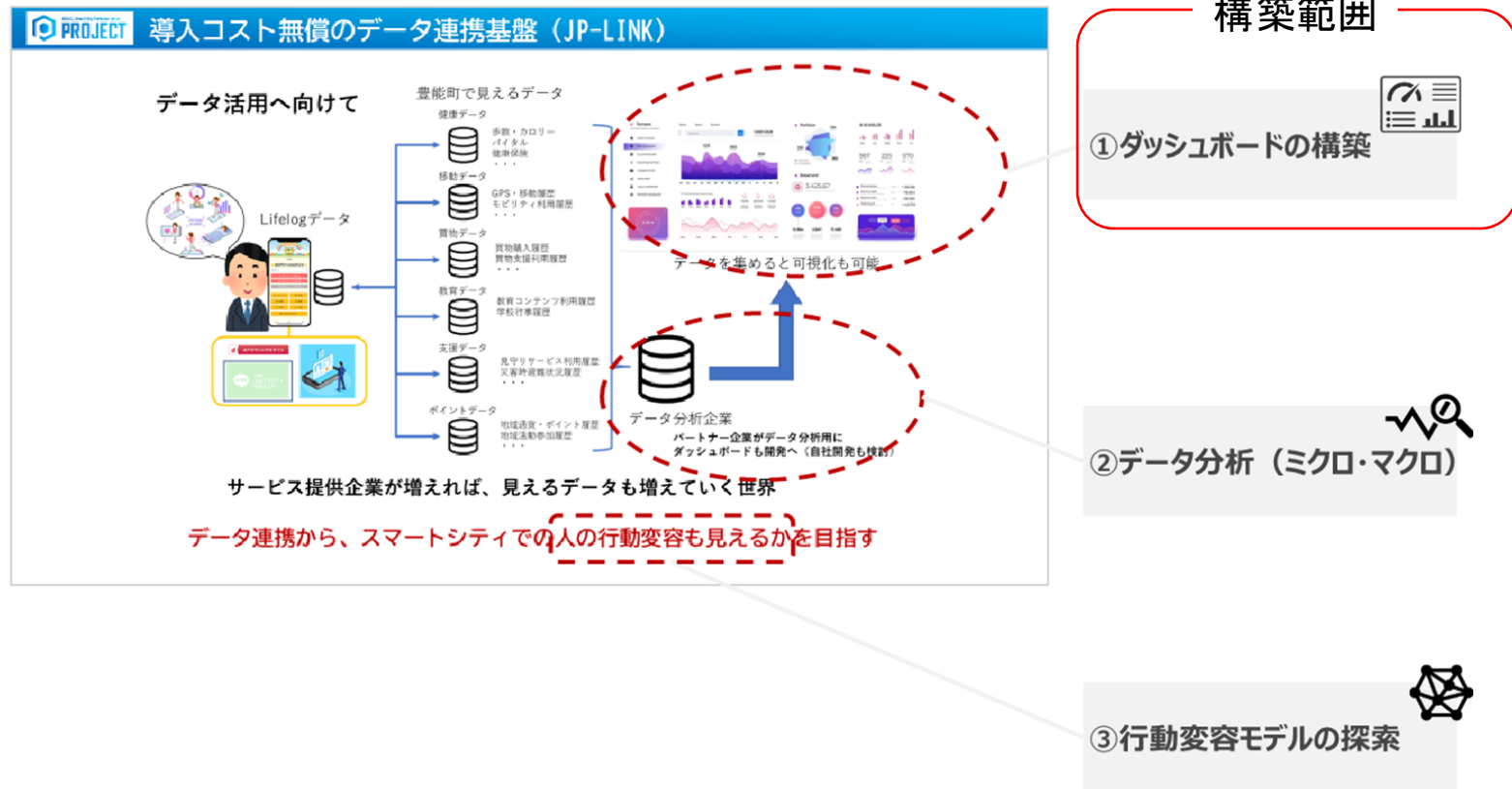
【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組

個人向けデータダッシュボード

JP-LINKで各企業が提供しているデータベースを参照し、個人の状態を可視化します。
可視化されたデータから利用者の行動変容に繋がるきっかけを作ります。

R4はダッシュボードをビジュアルでスマートシティに繋がるサービス利用状況を可視化します。
(R5機能拡張（補助対象外）：AI活用して、同類比較表示など検討)

■ とよのんコンシェルジュアプリから取得されるデータを同意のもと、一元化



■ 活用するデータとサービス

【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組

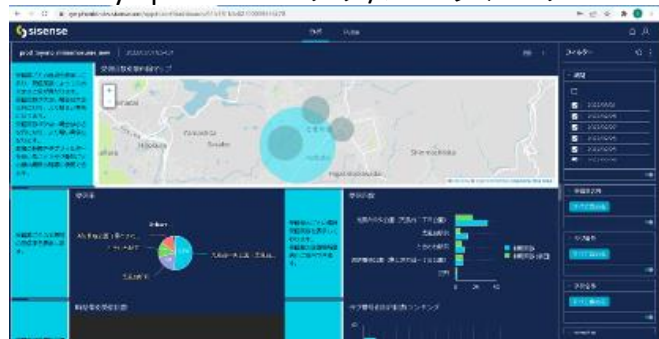
企業向けデータダッシュボード

R3年度にJP-LINKポータルサイトをJP-LINKインストール向けサイトとして構築し、SymphonictでIoT機器のデータの可視化を行いました。R4年度はJP-LINKポータルとSymphonictを活用し、よりデータの活用を促すための企業向けデータダッシュボードを構築します。

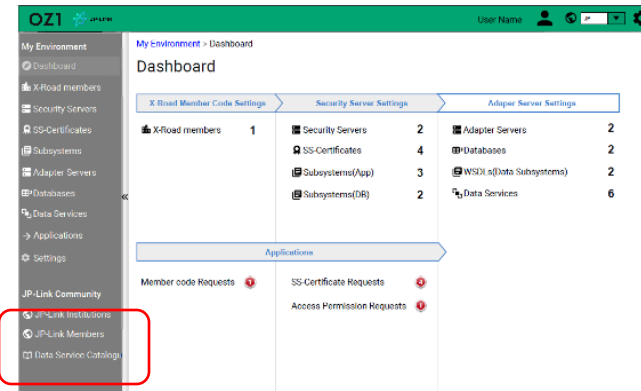
住民側は利用者個人のデータとして表示しますが、企業版では個人を特定せず（個人特定はJP-LINK内データ活用）、町全体の住民アクティビティを可視化します。

例： 65-75才でソートして、全体の歩数や平均歩数、イベント予約率、オンデマンド交通利用率などを表示し、街の活動状態を可視化し、サービス構築するきっかけやマーケティングデータとして活用できる環境を整備します。

Symphonict : ICタグ/カメラデータ



JP-LINKポータル : インストール向けサイト



会員企業が各町のスマートシティサービスにおけるデータの可視化を行います。

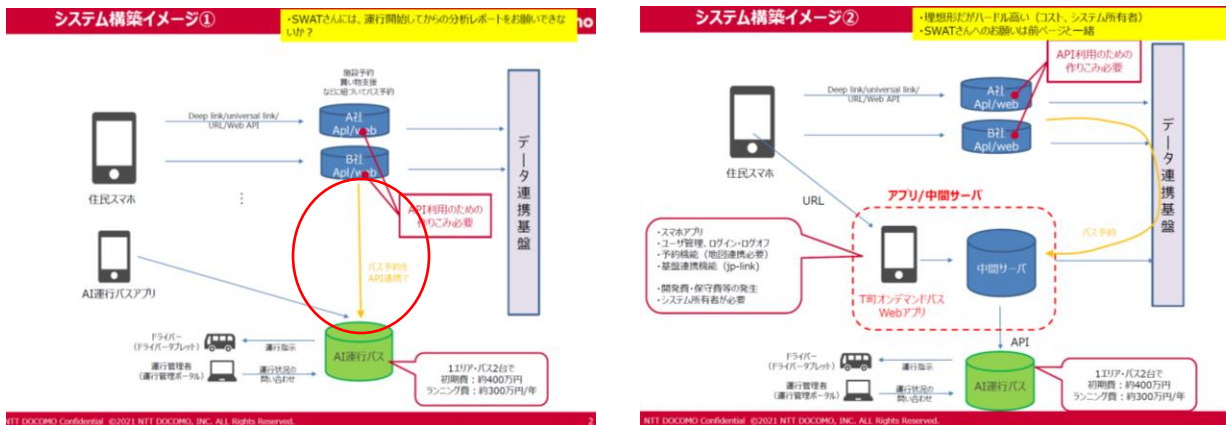
■ 活用するデータとサービス

【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組（API/JP-LINKコンバートモジュール）

R3 JP-LINK（データ連携基盤）導入にあたり、大手企業の導入課題が顕在化しました。

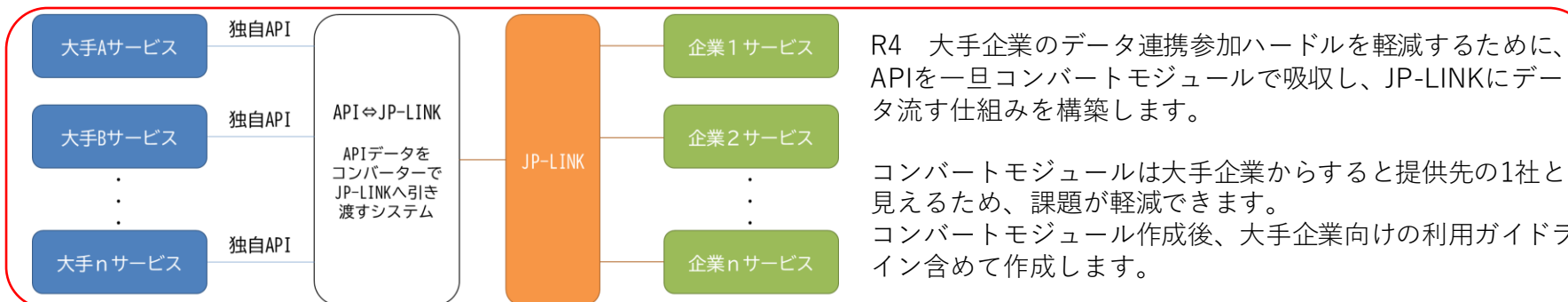
- ・大手企業のサービスは、当初データ連携を加味しておらず独自APIを提供し、運用を行っております。そのため、技術部隊やリスク管理部門からコンプライアンスやガバナンス上の問題で、すぐにJP-LINKの導入が難しく、導入するにあたりシステム全体の見直しや検証コストが大幅にかかる状況です。
- ・また独自APIを提供すると連携先サービス会社が都度APIを構築し続ける環境となり連携先のコスト負担が大幅にあがります。

例： NTTドコモ



各社APIを作りこむコスト負担が大
(本来都市OSはこの差分を吸収する役割)

大手向け中間サーバ
(開発コスト8千万円、年間維持2千万円)
コスト負担が大きく汎用性が低い



JP-LINKが一般化されると不要な機能になります。それまでの大手企業への処置機能です。

R4 大手企業のデータ連携参加ハードルを軽減するために、APIを一旦コンバートモジュールで吸収し、JP-LINKにデータ流す仕組みを構築します。

コンバートモジュールは大手企業からすると提供先の1社と見えるため、課題が軽減できます。コンバートモジュール作成後、大手企業向けの利用ガイドライン含めて作成します。

■ 活用するデータとサービス

【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組（見守りサービス）

令和3年度事業：

ICタグとカメラで見守り対象者を可視化しました。
カメラ設置場所にICタグ受信機も合わせて特定の地域の見守り。位置情報とカメラでの状態確認が可能。

【課題】

見守れる範囲が基地局を設置した地区に限定

令和4年度事業：

スマホを基地局化：とよのんコンシェルジュを活用しているスマホが全て基地局になり、設備投資費をおさえつつ、見守り範囲を大幅に改善します。

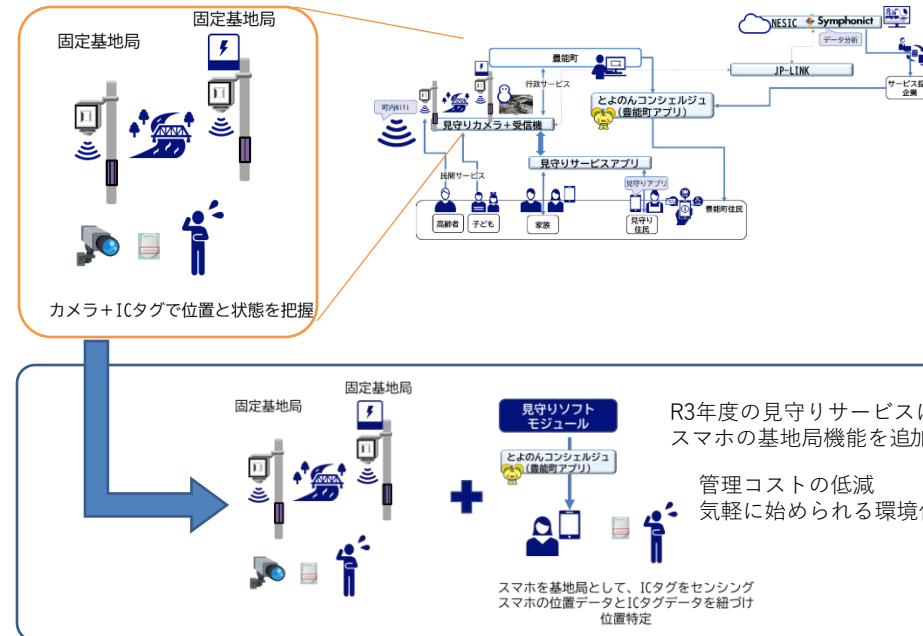
認知症による徘徊など高齢化による課題は顕在化しており、行方不明になった人を町民がボランティアで探し、見つけてくれた対象者に地域通貨・ポイントを提供できるようにします。

ICタグを持っている人をスマホで見守ります。

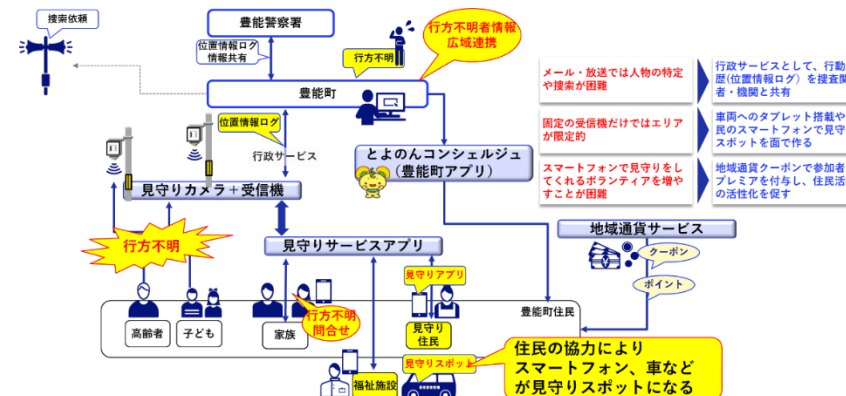
（補足説明）

既存の基地局はカメラと連携して、ICデータ以外に映像で状態が見えるので、相互運用で見守り対象者の状況を把握するシステムになります。

今年度、可能な限りウェアラブルのBluetoothでも測位できるか進めます。



スマホ見守り活用例： 地域通貨と連携して住民参加で見守り



■ 活用するデータとサービス

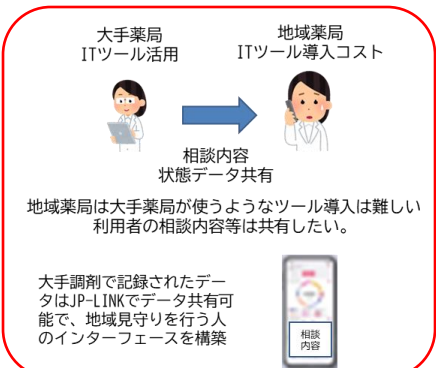
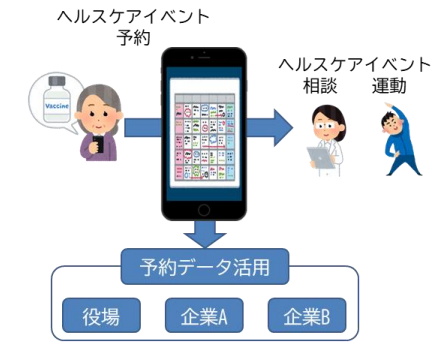
【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組（ヘルスケア）

令和3年度

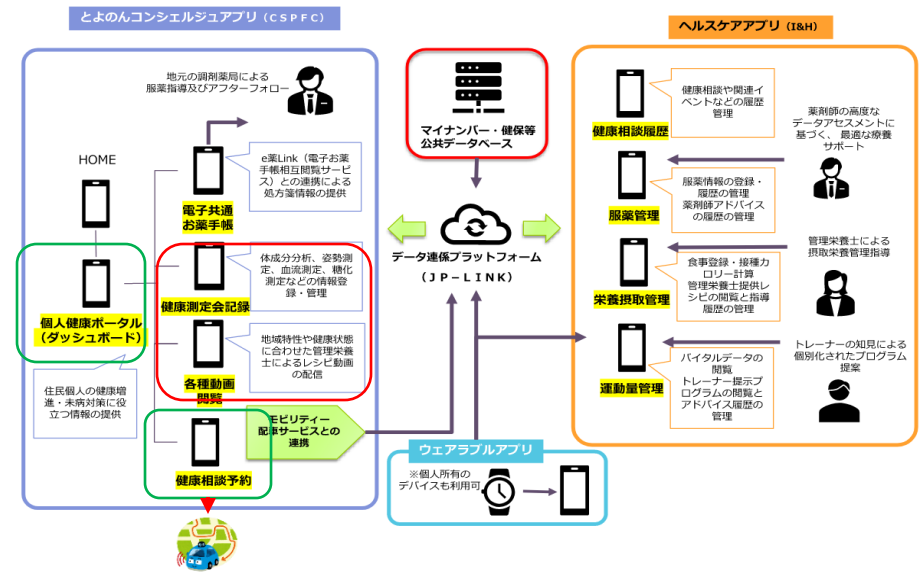
I&H（阪神調剤：予算配分はスパーク社）は地域薬局と住民の健康相談予約をアプリケーション化し、現在健康イベント予約などに活用し住民のQoL向上に努めています。

令和4年度

予約データはオンデマンド交通との連携、予約以外には健康相談/測定データの共有化を地域薬局や豊能町保険課と連携します。
(AI活用してよりパーソナルサービスに関してはデータ収集後、来年度以降に拡充)



デジタル活用したヘルスケア促進モデル将来像



予約データ共有からサービスデータの共有へ

デジタルツール導入困難な地域薬局でも健康相談後のデータをスマホで計測データや相談内容を自治体や企業と共有しツールを提供します。（JP-LINK上では共有できますが、地域薬局でデータを受け取る方法が無い問題を解決します）

■ 活用するデータとサービス

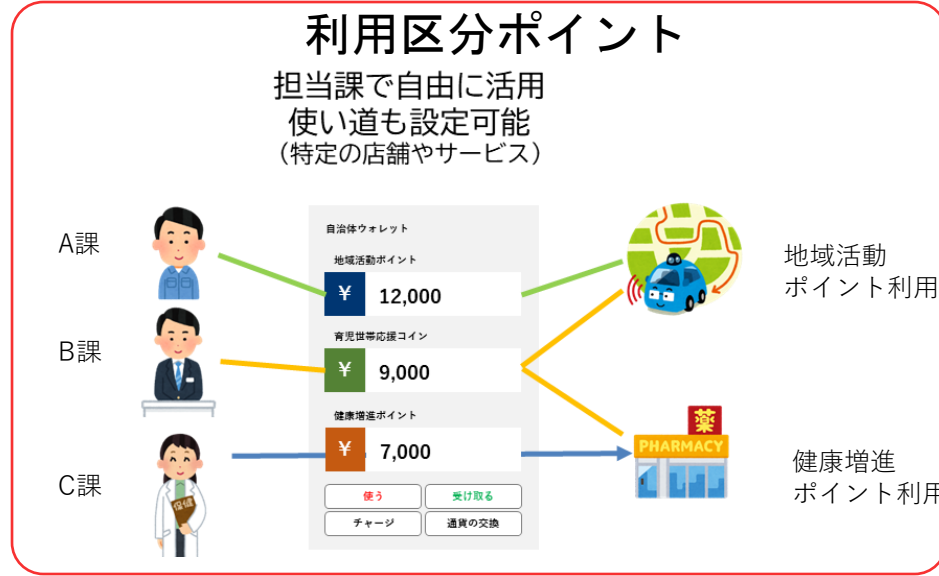
【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組（地域通貨・ポイント）

令和3年度

とよのんウォレットとして構築し豊能町内の地域通貨・ポイントとして利用でき、令和4年7月からプレミアム商品券として実施します。（令和3年度はシステム配備とスマホ教室での利用者への理解習得）

令和4年度

各課から商店で使えるポイント、健康増進に使えるポイントなど利用分野の限定や使える店舗の限定を行いたいリクエストがあり、通常地域通貨・ポイントは単一利用で店舗で使うと限定されております。今回の取組としては、発行自治体が事業促進を行うため、利用区分を作成して管理ができるように構成します。（他自治体への横展開システムは対象外）



現状の自治体運営そていポイント事業の度に、アプリを開発し、ポイントを付与する、利用者は色々なポイントアプリをインストールするなど、オペレーションが自治体も利用者も煩雑な状態です。

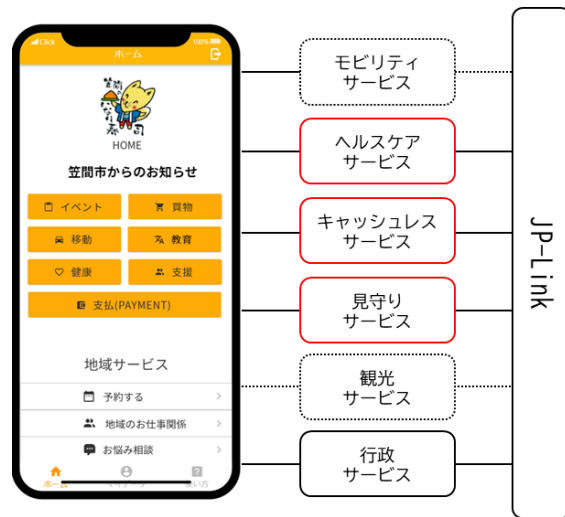
利用区分ポイントは、データ連携を活かし各課でのポイント付与を統合し、利用者の利便性の向上を行います。

■ 活用するデータとサービス

【具体的なサービス等の詳細】 横展開への取組（笠間市）

豊能町と同じ少子高齢化の課題を持つ笠間市で、豊能町で培ったサービスを展開予定です。
また笠間市でのノウハウも豊能町と連携しサービスの向上を目指します。

（今年度導入支援を行う費用を計上：サービスの整理、JP-LINK/UAX-LINKの導入のレクチャーや実装）



想定サービス

- ヘルスケア： 健康増進を中心とした活動量データの活用
地域薬局との見守りサービス
- キャッシュレス： 成果報酬型ポイント
- 見守りサービス： IoT見守りサービス（ICタグなど）
- 行政： オンライン市役所

モビリティ/観光は状況を見て検討

2. 人口減少時代における課題

背景 避けることができない「人口減少」と「少子化・高齢化」
多様化・細分化を続ける「意識と生活」

問題 「地域での暮らし」と「地域の経済」に多くの問題が顕在化
祭りが続かない、敬老会ができない、地域の草が刈れない、地域役員が変わらない
ゴミが出せない、電気が交換できない、話し相手がない、頼れる人がいない
事業を継ぐ人がいない、お客さんがいない、商品が売れない、資金がない etc

漠然とした将来への不安・閉塞感

住んでいる市民が「活力がある・感じる」まちをつくる

人（数と質） 経済（成長と循環） 基盤（安心と安全）
交流人口、関係人口、定住人口 → 所得分配 → 支出 → 生産・消費 → 防災、防犯、医療、福祉、予防

「新たなサービスの提供と持続」と「行政サービスの範囲の拡大・複雑化による限界」という現状
解決策として **公民連携による取組みを推進**
キーワードは 「ダイバーシティ経営（多様な人材確保）」 「デジタル化・DX」 「経営意識」

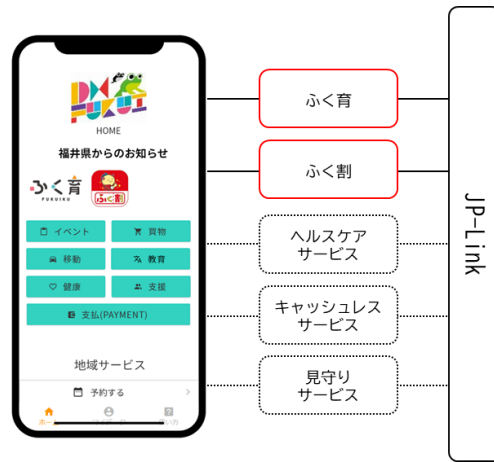


■ 活用するデータとサービス

【具体的なサービス等の詳細】 横展開への取組（福井県）

福井県では既存のふく育（子育て）とふく割（割引クーポン）をJP-LINKでデータ連携を予定しており、将来的には豊能町で実装されたサービスを含めて、色々な分野のデータを連携させ地域の活性化を目指しております。
 本年度福井県への導入を進め、希望参加自治体と連携を予定しております。

（今年度導入支援を行う費用を計上：サービスの整理、JP-LINK/UAX-LINKの導入のレクチャーや実装）



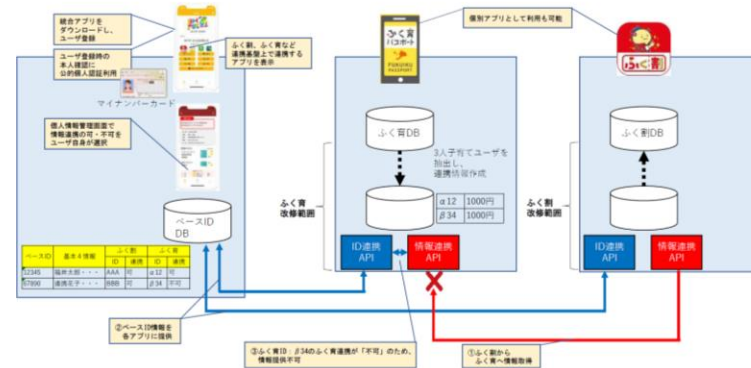
想定サービス

- ・ふく育： 子育て支援サービス
 - ・ふく割： 割引クーポン
- 2つのサービスを連携することからスタート

今後の想定サービス

- ・ヘルスケア： 健康増進を中心とした活動量データの活
- ・キャッシュレス： 地域通貨を活用したサービス
- ・見守りサービス： IoT見守りサービス（ICタグなど）

ふく割・ふく育連携イメージ - ② -



情報連携基盤 将来活用イメージ例



連携基盤

- ID管理基盤：連携基盤上の各サービスの異なるIDを紐付ける統一IDを管理。本人確認は、マイナンバーカード搭載の電子証明書による本人認証を利用。
- データ連携基盤：連携基盤上の各サービスをAPIで連携し、必要な時に必要な情報に接続。情報ストア（情報銀行）は構想しない。
- IoT連携基盤：各種センサーで取得した情報を連携基盤上の各サービスに連携。

■ 活用するデータとサービス

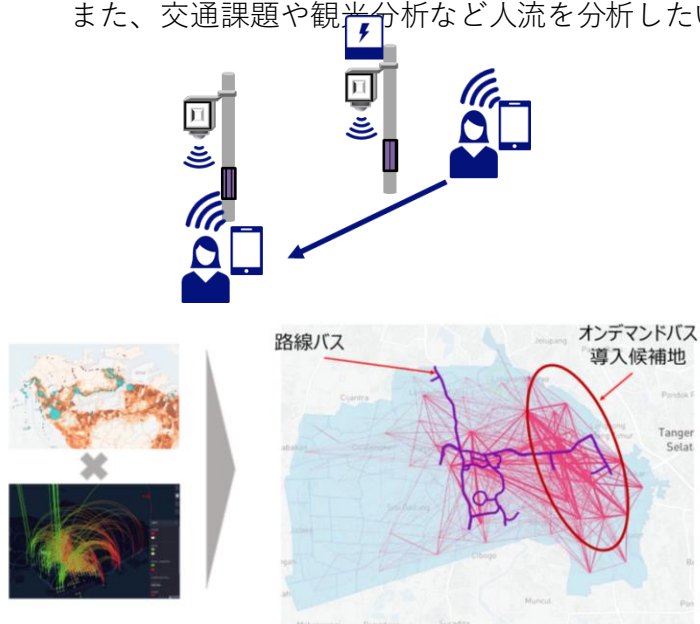
【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組（WiFiパケット人流分析）

WiFiパケット人流分析：

交通分析やスマートシティサービスでの行動変容など人の動きをWiFiパケットを受信機で取ることで、住民の活動を把握します。

受信機設置個所をスマホ（WiFiがOn状態）が過ぎると、移動経路が分かります。（また個人情報保護のための匿名化）
大阪公立大学と連携して、学生主体でデータ収集と分析を行い、データ連携基盤を介して自治体や利用企業への展開を行います。

また、交通課題や観光分析など人流を分析したい大阪府下自治体へ安価に利用できる環境の構築を行います。



WiFiパケット人流分析イメージ

スマホ保有者の大半はWiFiをOnにしたまま外出するため、多くの対象者を把握が可能

通信キャリア人流サービス



NTTドコモ（Datawise）の人流分析は、dアカウント利用者のみ把握可能（個人情報保護のため、詳細データより大きな計測データのみ開示可能）

ICタグでの人流分析



ICタグではICタグ保持者のみ、移動データを取得可能です。

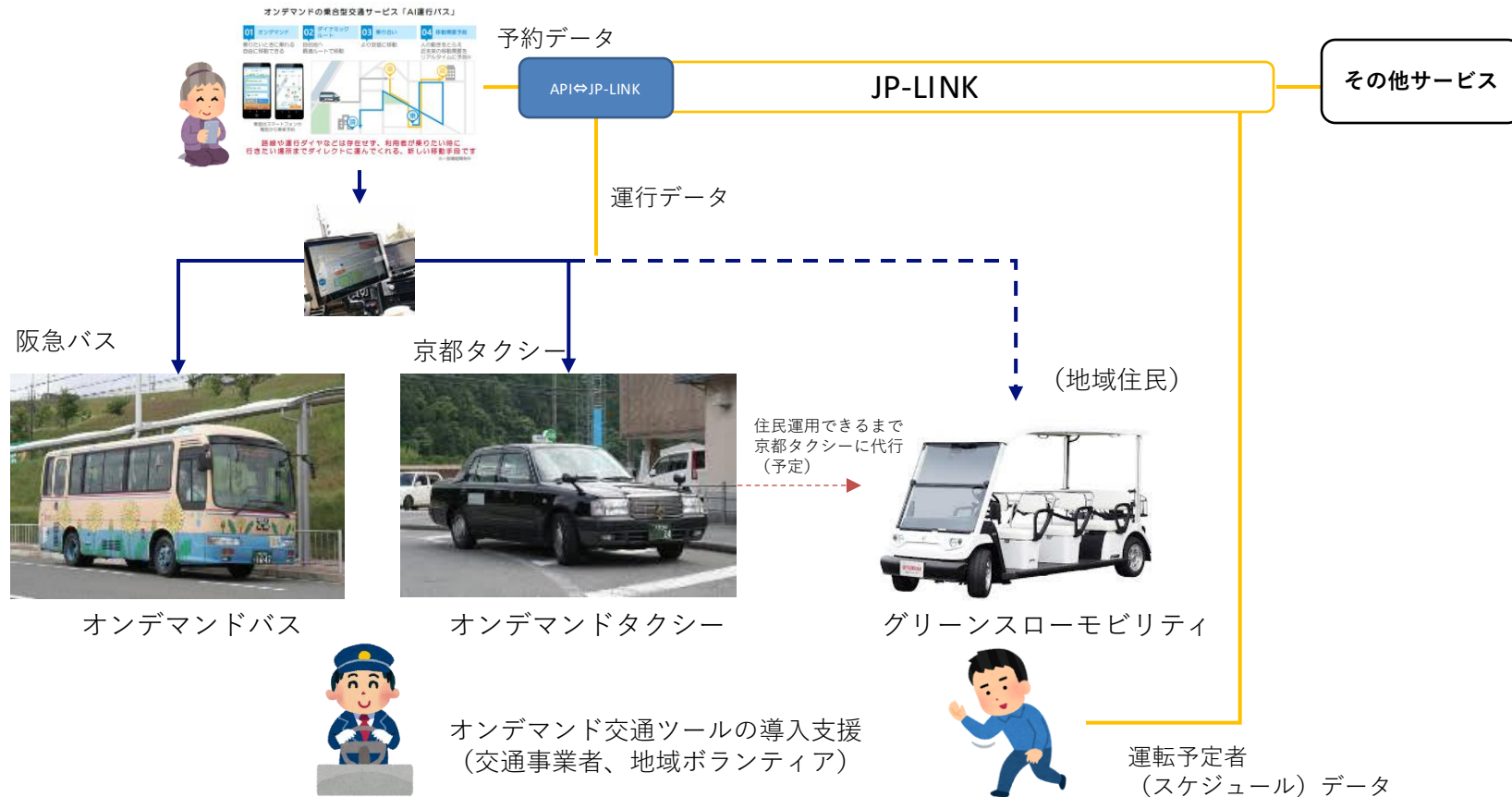
他人流分析ツールとの比較

■ 活用するデータとサービス

【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組（オンデマンド交通/グリーンスローモビリティ）

豊能町では本年度交通課題を阪急バス、京都タクシーなどの公共交通機関と解決すべく、オンデマンド交通のツールを導入します。交通事業者は、IT知識が低く導入にハードルがあるため、導入支援を行い、導入後データ活用できる環境を整備します。

（本事業は、国土交通省、経済産業省に車体やツールの導入予算を申請しております。ただ採択されなくても豊能町予算で導入する予定になりますので、本事業として採択頂ければ活用には問題はありません）



■ 活用するデータとサービス

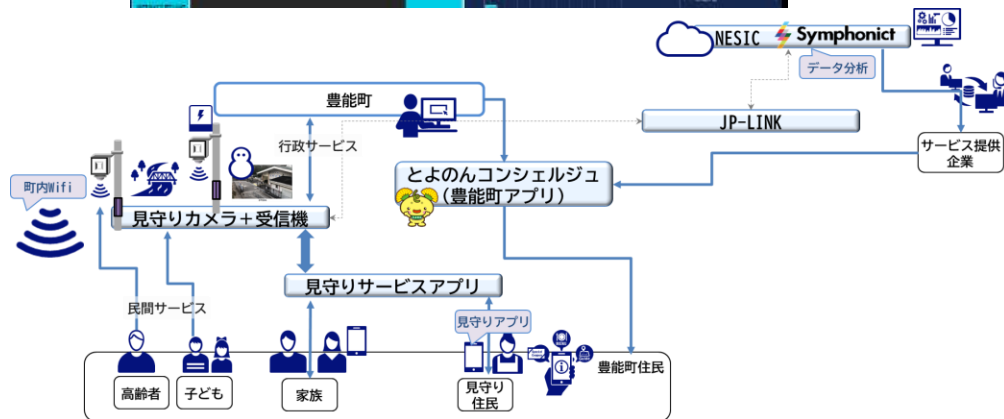
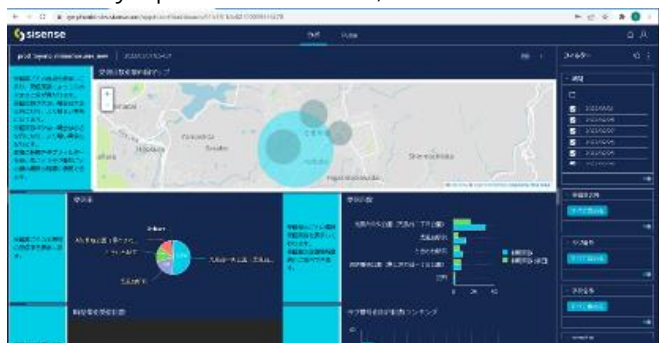
【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組（見守りカメラのAI分析）

R3では、ICタグとカメラを活用して住民のデータをSymphonictのBIツールで可視化しました。豊能町では、何か問題がある際にBIツールから状況の確認が行えます。

R4では、データ活用や自動化を進めるためにAIでの分析を行い可視化するデータ範囲を拡張します。

(混雑状況分析、人の分類分析、異常分析などをAI化し自治体と企業での利用範囲を拡充。パブリッククラウドで構築し横展開の促進を行います。)

Symphonict : ICタグ/カメラデータ



AWSなどのクラウドAIサービスを活用

■ 活用するデータとサービス

【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組（インフラ）

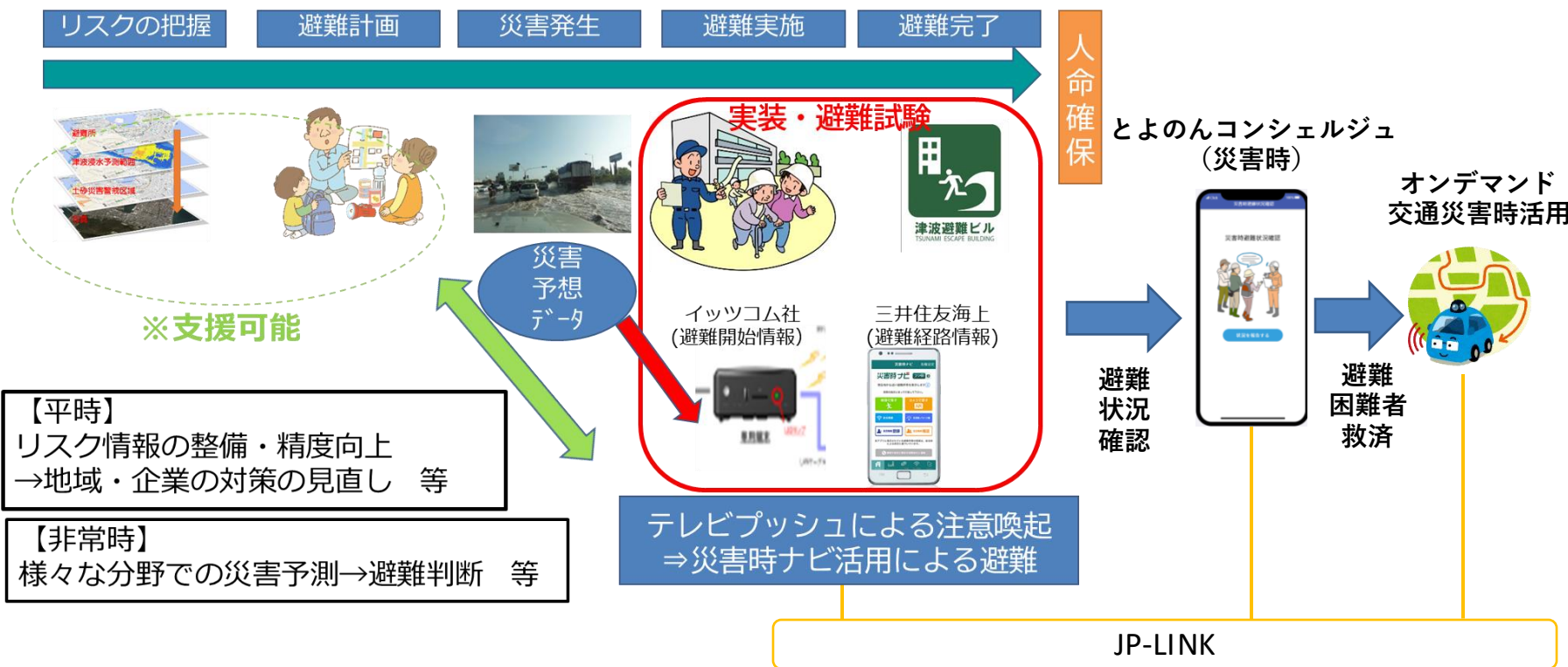
豊能町の道路は老朽化に伴い、破損箇所も多く役場の巡回で破損箇所の把握するなど人々が多く掛かります。
 ドライブレコーダーを活用し、データ分析を行い修繕計画に活用する他にデータ連携基盤を介して危険箇所は住民へ共有します。
 住民通知に関しては横展開可能な状況で構築します。



■ 活用するデータとサービス

【具体的なサービス等の詳細】 データ活用を促進する取組（防災サービス）

- R3 TVプッシュと災害時ナビを導入し、防災訓練を含めて運用確認を行いました。
- R4 高齢者や介護者などのIT弱者や避難困難者に対してオンデマンド交通配備により、TVプッシュのコンテンツ改修を行い、避難困難者をTVとスマホの両方で状況を把握し、オンデマンド交通を活用して避難が行えるようにします。



マルチモビリティ・マルチサービス事業/マルチMaaSプロジェクト（大阪府豊能町）

実験予算 約5,904万円
(内 本事業負担額 約5,904万円)

概要

- 自動運転・オンデマンド交通・グリーンスローモビリティなどのMaaSを活用し豊能町に実装した、スマートシティサービスとの連携を行います。

推進体制

代表団体	一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会
参加団体	豊能町（フィールド提供・関係団体との調整） 阪急バス（実証実験の運行主体） 京都タクシー（実証実験の運行主体） OZ1（全体システム統括） NTTドコモ/SWATモビリティ（オンデマンド交通ツール提供） 関西電力/アイサンテクノロジー（車体手配）

地域の交通課題

- 豊能町は少子高齢化に伴い人口減少し、中山間部で坂道が多く、公共交通は年間6千万円の赤字をだし、住民アンケートで5割以上が交通状況において不満を抱えている状況です。
- 令和3年からスマートシティに取り組み色々なサービスを開始するが、高齢化に伴い、移動手段が課題でうまく利用できず。住民アンケートでもオンデマンド交通はヘルスケアに次いで住民リクエストの高いサービスです。
- 令和4年から交通会社と豊能町、大阪府とオンデマンド交通の導入を検討しており、運転手の高齢化も進んでいるため、住民運用のグリーンスローモビリティや自動運転の活用も検討しております。色々な交通手段を色々なサービスに繋ぎ最適な運用状況の検証を行います。

社会実装に取り組んでいる新しいモビリティサービス

- 赤字路線バスにおいては、オンデマンド交通における赤字低減、運転手不足に自動運転・住民運行型グリーンスローモビリティの両面で公共交通の運用を進めます。利用目的にスマートシティサービスで行っているヘルスケア健康相談の対面時の移動や、買物、観光への活用、災害発生時の移動手段などに連携します。利用者は地域住民を中心に、町外住民としては「おてつたび」など地域課題解決をしてくれる人へ提供します。ビジネスモデルはこれから検証を行う中で整理します。（福井県永平寺町のように定期券を購入する動機を作りたい。）

選択テーマ・フィールド

テーマ	C.需要側の変容を促す仕掛け
フィールド	豊能町は人口18,777人、高齢化率40%、豊能町は西地区（住宅地で人口の8割）と東地区（農家の多い地区）に分かれ、間に箕面市を通り移動になる分裂した町です。昭和40年代に山を切り開いた町で、坂道が非常に多く高齢化のなかで移動が非常に不便な状況です。結婚や子育てを期に若者が流出する状況で、500人/年で人口減少しております。交通は阪急バスと京都タクシーのみで、タクシーは高齢化も進み4台で運営しています。予約しても待ち時間も30分以上と長いケースも多くあります。

実証実験概要

- #### 検証手続・実証実験内容
- 検証命題
 - オンデマンド交通での公共交通赤字の改善
 - マルチモビリティ（自動運転/グリスロなど）を活用し運転手不足の解消
 - データ連携基盤を活用し交通手段の連携/スマートシティサービスとの連携をし住民QoLの向上
 - 実証実験のステップ
 - 人流分析、交通分析を行い、移動ニーズの可視化
 - 最適な交通手段と配備台数の検討
 - 実際に配備した際の住民アンケートと人流・交通分析で
利用者の行動変容の確認
 - 収益モデルの再整理



【全体評価項目】

新たな交通サービスで安心して暮らせるまちへ ~交通がまちの未来を変える~

現状	課題	あるべき姿
<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の進行 地域コミュニティの希薄化 日常の買い物や通院など、自家用車への依存度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化に対応した暮らしやすさを実現する交通網の整備 交通弱者の移動手段の確保 共働きによる家族の送迎の負担軽減 地域コミュニティの場の参加促進 交通と商業施設の連携 	<p>整備方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ■幹線型バス路線(広域型) ・光風台駅及びときわ台駅と千里中央駅を接続 ■フィーダー型バス路線 ・AIオンデマンド交通を主体とした効率的な交通網 <p>効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 【住民】生活上の移動手段を確保し続けることが可能となり、外出の機会や自由度が獲得できることから、生活の質そのものが向上する。 【行政】戦略的に効率的な交通網を構築していくことにより、まちの活性化や住民満足度の向上につながる。

さらなる交通需要増大の仕掛け

- 次世代モビリティによる移動でまちづくりへのインパクトをつくる
- AIオンデマンド交通を導入したハブ&スポーク型の地域公共交通体系へ転換し、効率的な運行ネットワークを形成する

● 令和6年度実装導入を目指し、検討中。
● これを実現するため、

- 令和4年度と令和5年度に国費、府費などを活用した実証実験の検討。
- 令和4年6月目標に、地域公共交通活性化再生法の協議会^{※1}と道路運送法の地域公共交通協議^{※2}を立上げ、地域公共交通計画^{※3}の策定と地域の合意形成を目指す。
※1：法定協議会、※2：地交協議会、※3：再計画案という。
- 実装運行時の運行補助(国費)の活用も検討。

<実装導入へのスケジュール>

	R3(2021)			R4(2022)				R5(2023)				R6	
	1	2	3	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
AIオンデマンド導入							実証①					実証②	実装
法定協議会等													

法定協議会と地交協議 立上げ

再生計画策定

<実証実験へのスケジュール>

実施① (2か月程度)	実施② (6か月程度)
<ul style="list-style-type: none"> 実証計画(素案)、機材費用(利用促進項含む) 国プロ(車相談) TAXI、地元、隣接市可調整 協議会設置 OR 事業連携協定 補助金申請 	<ul style="list-style-type: none"> 実証計画(詳細) TAXI、地元など調整 準備(線の見直し) 実証②

今後、「法定協議会」を立上げ、地域公共交通計画策定のなかで検討していくこととなるが、現時点の地域公共交通に対する考え方は以下のとおり

<地域公共交通の方向性>

- 豊能町では、高齢化と人口流出が続いている。高齢者の移動の確保と合せ、街の再生と導入促進を図る観点から新たな交通モードの導入が必要と考えている。(※朝夕の都心への通勤対応は路線バスを想定)

<運行エリア(案)>

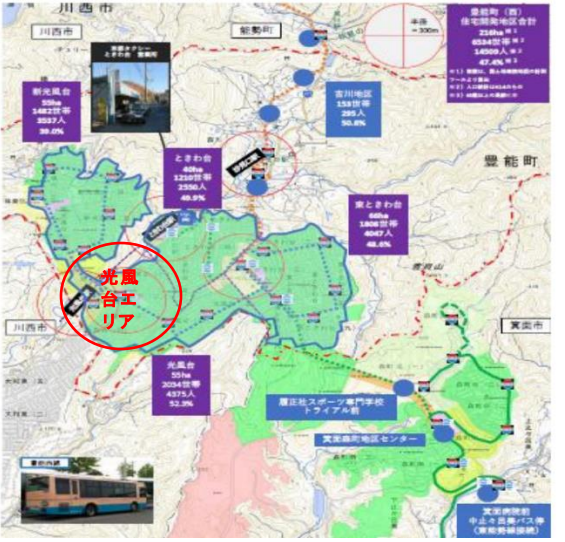
- 川西市黒川地区⇔豊能町 妙見口駅、西地区の住宅開発エリア⇔箕面森町、箕面病院

<期待する機能>

- 住宅地エリア内(生活圏)移動の充実(買い物や通院がしやすい、役場・公共施設へ行きやすい)
- 能勢電接続・阪急バス東能勢線接続が便利(時間待ちなし)
- 箕面森町、箕面病院へのアクセスの充実
- 妙見口付近の行楽利用(来街者の増加)

<実装後の収益性確保等>

- 導入検討にあたっては、導入後の利便促進・収益性確保(※1次項参照)などについて、運行事業者との検討が必要。



- AIオンデマンド交通の運行そのものだけでは、利用者の増加や収益性の確保が困難。
- AIオンデマンド交通の専用アプリを使用するといった特性を活かし、目的地情報として地区内の施設・店舗の情報や予約サービス、お得サービスを提供し利用促進や収益性向上を図る。(⇔地域MaaSサービス)

目的地・情報	予約/お得サービス(例示)
<p>公約施設</p> <p>図書館、西公民館、ユーベルホール、健康福祉センター、シートの等</p>	<p>旅券予約</p> <p>施設利用の予約/使用料割引</p>
<p>スーパー・買物施設</p> <p>阪急OASIS ときわ台店、イズミヤ 光風台店、コープ 新光風台店</p>	<p>例) 1万円分利用(定期券含む)で500ポイントサービス</p>
<p>交通機関</p> <p>京都タクシー、東地区デマンドタクシー</p> <p>※接続する路線バスの混雑状況の可視化</p>	<p>予約サービス</p> <p>コロナ混雑回避情報の提供</p>
<p>医療機関 [可保険調HPより抜粋]</p> <p>箕面病院</p> <p>【内科胃腸呼吸科】</p> <p>西瀬医院、藤末クリニック、医療法人 坂本内科医院、北大阪医療生協 光風台診療所</p> <p>医療法人 まわり、ひらがクリニック、小川内科医院、井上医院、西南耳鼻咽喉科、村井眼科</p> <p>【歯科】</p> <p>永見歯科医院、おむかわ歯科、医療法人 道和会 加藤歯科医院、池田歯科医院、ゆかりデンタルクリニック、北川歯科医院、小原歯科クリニック、</p> <p>【整形外科】</p> <p>森井整形外科クリニック、滝沢整形外科</p> <p>【薬局】</p> <p>ファーマーオカムラ薬局光風台店、ハープ薬局、ファーマーオカムラ薬局新光風台店、有限会社杏杏薬業 ひざん薬局、ファーマーオカムラ薬局ときわ台店、としみつ薬局</p>	<p>予約サービスできることから、随時拡大</p> <p>クリニックの待合室混雑情報の提供等</p>
<p>その他</p> <p>長閑なではのAIオンデマンドの利用促進につながるサービスを期待</p>	

分析ツールとアンケート

交通分析

人流分析

豊能町がスマートシティ構築のモデル地区に！

第1回 アンケートにご協力ください

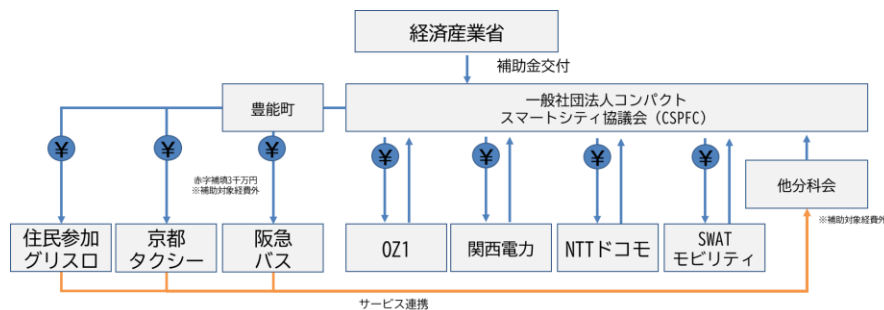
アンケートはここから

4ページ以内で記載

【重点取組評価項目】

事業面

- ・交通赤字の削減/利用者の増加
- ・住民参加によるグリスロ運行によるコスト削減
- ・スマートシティサービス連携による



体制・環境

- ・人員は既存交通を活用し、グリスロに関しては今後住民説明で調整
- ・実証実験の結果からデータ分析を行い、継続的に関係者と調整

その他

- ・可能であれば自動運転 (JapanTAXI版) を導入したい。
- ・オンデマンド交通ツールで効果が計測できれば、同じツールを活用して、自動運転車両の配備の検討します。(運転手不足への対応)

受容性・効果

- ・利用者の行動変容はスマートシティサービスと合わせてデータダッシュボード、アンケートなどを活用し分析を行います。



R3年度はBIツールにてアセットの可視化のみ



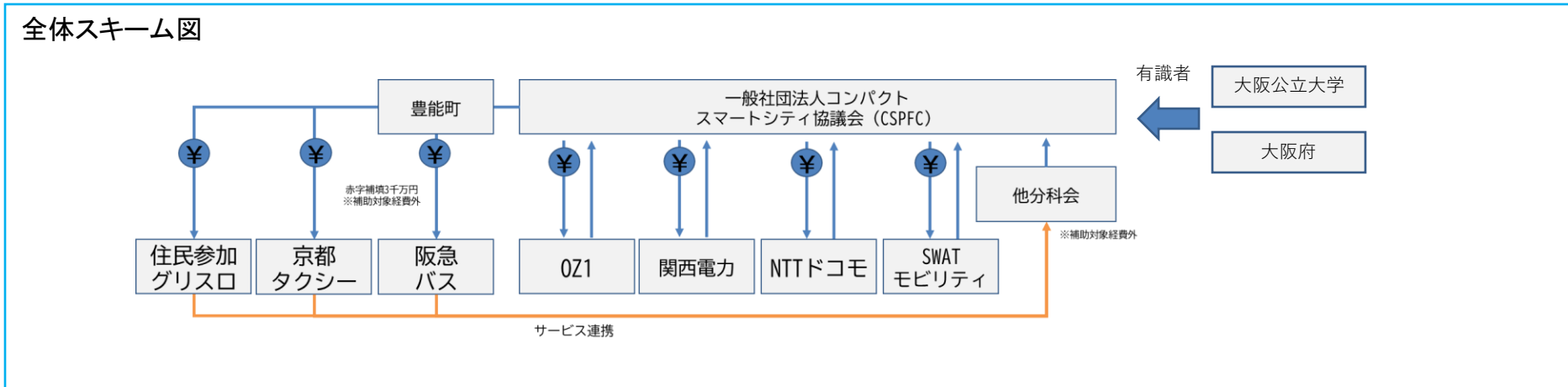
コンパクトスマートシティパーク
豊能町コンパクトスマートシティを産官学民で構築できる環境

<p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃校活用 廃校活用として国内外の企業や大学とも連携してデジタル環境の文化形成 ・ 小中一貫校 GIGAスクール環境を活用しデジタル人材育成 <p>起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 起業・スタートアップ育成向けサインキューベション施設 ・ 大学との連携によりIT企業の促進 <p>活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スマートシティサービスを地域コミュニティで体験し育てる環境 ・ 地域課題など起業家にとって必要な情報を収集できる環境 <p>交</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園を活用して、自治体、地域住民、大学、企業のコミュニティスペースとして活用 <p>防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災スペースとして、災害時の避難などにも活用 		<p>育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リビングラボを活用して子育てや子育てコミュニティで「孤独感」を解消しみんなで育てる環境を構築 <p>働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てで離職した親がリモートワークで就労できる環境を整備 <p>買</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域スーパーなど連携して買物支援、忙しい子育て家庭や高齢者の支援 <p>健</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大手薬局と地域薬局を連携して、住民の健康相談を行い、見守る環境 <p>移</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンデマンド交通などモビリティを活用し移動をスムーズにする環境
---	--	--

JP-LINKなどをベースとしたデータ連携

事業名	事業概要	実施年度	発注者等 (自主事業の場合はその旨)
NTTドコモ	河内長野 地域活性化/与那国町 交通弱者にやさしい街/横浜市 地域経済の活性化など多数	2018年～	
SWATモビリティ	新潟交通 オンデマンドバス実証実験/北九州市 路線バスのシュミレーション/なの花交通「江戸ひとめぐりバス」など	2020年～	

【全体スキーム図】



主体	主担当者	本事業における役割	担当者が本事業に期待している事項
大阪府豊能町	まちづくり創造課 課長 田中 久志	全体調整、発注契約	赤字低減、住民QoLの向上
一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会	代表理事 江川 将偉	企画立案	社会実装における必要機能の絞り込みや想定利用者のコスト負担力の見極め等
株式会社NTTドコモ	法人営業部 ビジネスデザイン担当主査 仲神秀彦	オンデマンド交通の運行者	他サービスとオンデマンド交通との連携による効果
SWAT Mobility Japan 株式会社	代表取締役 末廣 将志	オンデマンド交通の運行者	他サービスとオンデマンド交通との連携による効果
関西電力株式会社	地域エネルギー本部 地域エネルギー開発グループ マネージャー 加宮 義隆	車体提供	災害時などでのEV活用
株式会社OZ1	代表取締役 江川 将偉	全体システム構築	スマートシティサービスの住民移動の効率化
大阪府	スマートシティ戦略部 課長補佐 金澤 明広	全体指導、調査方法指導	大阪府下自治体への展開向け検証
大阪公立大学	学長補佐 阿多 慎吾	全体指導、調査方法指導	スマートシティとしてのデータ活用
阪急バス株式会社	(豊能町にて調整中)	乗合バスの運行	
京都タクシー株式会社	(豊能町にて調整中)	乗合バスの運行	

コンパクトスマートシティはデータ連携基盤（JP-LINK）を活用しモビリティと様々なサービス（ヘルスケア、見守り、子育て、防災、観光、など）を連携し、住民や町外住民の利便性の改善を目指します。また地域公共交通の赤字の低減すべくAIオンデマンド交通を導入し、マルチにモビリティを活用できる環境の構築を行います。

協議会の 構成員	一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会 (豊能町、OZ1、NTTドコモ、関西電力、三井住友海上、NECネットエスアイ 含む50団体) 大阪大学、大阪公立大学、Code for Osaka、大阪スマート シティパートナーズフォーラム	
地域 課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通空白地帯の利便性の低さ ● 公共交通の維持に係る財務の負担 ● 高齢化によるドライバー不足 ● 交通弱者対応 <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化による免許返納への対応（自家用車への依存度高） ● 街全体が中山間部で坂が多い ● 電車で来た観光客の移動手段がない ● 住民アンケートでの公共交通不満率50%以上 	
事業 概要	サービス 開始時期	2022年Q4～実証サービス開始/検証
	エリア	大阪府豊能町（西地区：光風台周辺）
	MaaS システム	(仮) 豊能町スマートモビリティプラットフォーム (NTTドコモ、SWATモビリティなどオンデマンドシステムの統合化)
	交通 サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● オンデマンドバス ● オンデマンドタクシー ● グリーンズローモビリティ ● 電動キックボード
	交通以外 のサービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康相談イベントとの予約連動サービス ● 豊能町の地域通貨による乗車料金支払 ● 防災システムとの連携（移動困難者救済） ● おてつたび連携（観光客の送迎）
事業 目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種スマートシティサービスとのシームレスな連携により、町民にとって便利でQoLが向上するようなサービスを提供する ● 移動状況の可視化・分析を可能とし、継続的な交通課題対策、及び地域活性化の取り組みをサポートする ● 定時定路線バスのオンデマンド化によって地域交通のコスト効率化を実現する 	

取組イメージ

スマートシティ統合アプリを通じてサービスの提供

評価指標

- 地域イベント（健康相談イベント等）参加者のAI運行バス利用率
 目標：2022年度末：20% 2023年度末：30% 2024年度末：40%
 策定方法：とよのんコンシェルジュアプリからのアンケート調査
 または参加者への紙アンケートで測定する
- AI運行バス利用満足度
 目標：2022年度末：40% 2023年度末：50% 2024年度末：60%
 策定方法：AI運行バスサービスを利用した人の5段階評価満足度を調査する（満点5点）
 AI運行バスサービスを利用した後にアプリ画面でアンケート画面を表示し（もしくは紙アンケート）
 利用者の満足度をアンケートで測定する

今後の方向性

- R4年度：オンデマンド交通の有用性の検証
- R5年度：交通外のサービスとの連携と行動変容の検証
- R6年度：オンデマンド交通の実装

地域住民や観光客に定期的にアンケートを取りながらPDCAを回し、費用対効果と合わせて事業化を進めていきます。

(1) サービス開始時期

R6年度～(R4～5年度は実証期間)

(2) 事業エリア

人流データや交通シミュレーションを活用したエリア設定
例

- ・川西市黒川地区⇔豊能町妙見口駅、
- ・西地区の住宅開発エリア⇔箕面森町、箕面病院

(3) 連携する交通手段

路線バス、タクシー、電車

(4) 連携する交通分野以外のサービス

- 健康相談イベントとの予約連動サービス
- 豊能町の地域通貨による乗車料金支払
- 防災システムとの連携（移動困難者救済）
- おてつたび連携（観光客の送迎）

(5) 提供するサービスの内容及び手段

オンデマンド交通アプリの構築
他サービスとの連携（とよのんコンシェルジュ連携）構築
データ連携を介して「ヘルスケア」「防災」「観光」など
シームレスに連携する環境を提供

(6) 利用料金

地域交通事業者と協議した上で決定する

(7) 事業を通じて期待する行動変容

- ・町民：
 - ①地域イベント参加率向上
 - ②スーパーや病院など施設への移動の自家用車利用率低減
 - ③免許返納率向上
- ・観光客（来訪者）：
 - ①観光スポットへの周遊性向上
 - ②来訪者のリピート率向上



(8) 先進的な技術の導入

- ・「人流データ」を活用した交通分析
- ・データ連携を活用し2つの交通事業者のシームレスな乗り換え（阪急バス/京都タクシーによるエリアマネージメント）

(9) プロモーション施策

- ・スマートシティアプリ/スマホ教室などでの告知

スマホ教室での利用講習会

(10) 新聞紙面チャリ

自動運転との連携も視野に入れ、検討中

デジタル田園都市に向けたコンパクトスマートシティパークの構築

パークを通じて「コンパクトスマートシティ」としてデジタルを活用した街づくりを推進します。

町内外の利用者の新しいコミュニティを形成しスマートシティの体験とQoL向上に繋げていきます。

目標 (KPI)

サービス予約数: R4 20人→R5 100人→R6 200人
 連携予約サービス数: R4 2件→R5 4件→R6 8件
 利用者満足度: R4 30%→R5 40%→R6 50%

実行計画

R3年度に整備したスマートシティ環境を活用して、より多くの利用者に体感できる環境の整備をパークとして構築



12分野以上のサービスを都市OSで連携しデータ活用の促進と国内外含めた交流拠点の形成を行います。

実証内容

誰一人取り残されないスマートシティインターフェース実証

【課題】

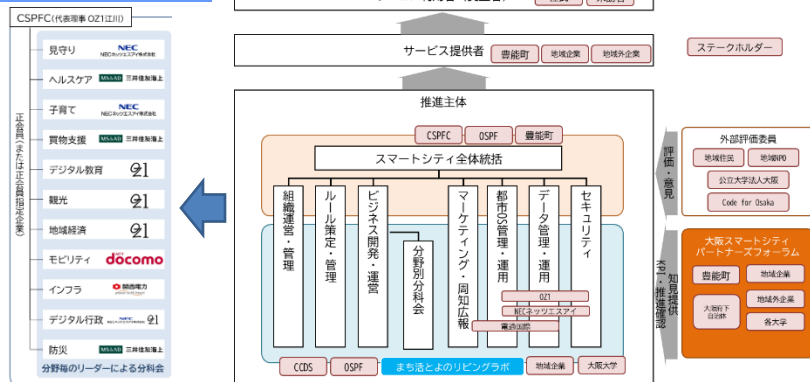
高齢者や子供、障害者など自由にスマホを使えない

【解決方法】

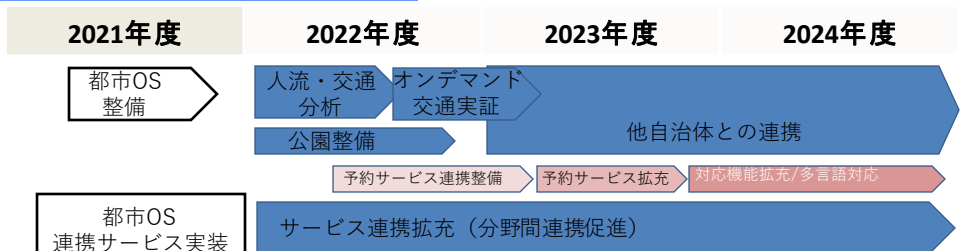
スマホ以外に電話やTVを活用してスマートシティサービスを活用できる環境の整備を進めます。まずは予約システムとオンデマンド交通をベースにヘルスケア、子育て、防災などのサービスにつな



体制



スケジュール



■ 本実行計画の概要

スマホ、電話、TVでスマートシティサービスのインターフェースを改善し、データ連携を活用してシームレスなサービスを提供できる環境を検証します。本年度はAI電話を活用しスマホ、TVとの連携と実装済みサービスの連携を検証します。

(課題)

少子化に伴い、近年3校が廃校になり、活用方法が決まらない。



スマートシティの活用場として国内外のIT先進大学と連携やスタートアップの実証フィールドとして活用します。

(課題)

公園利用者がほぼなく、メンテナンスコストだけが掛かっている状態



町内外のコミュニティスペースや、子育て、IT系の実証フィールドとして再生を目指します。

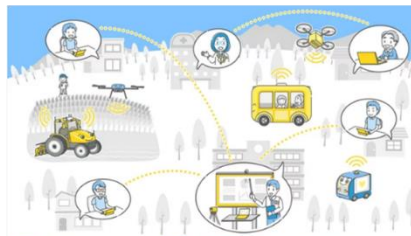


データ連携基盤を活用し予約データと交通やヘルスケアなど色々なサービスとも連携しIT弱者でもスマートシティサービスを利用できる環境の整備を進めます。豊能町では高齢化率が40%を越えスマホ教室でも予約確認だけで問い合わせが役場にも多く寄せられました。これからオンデマンド交通など始めると、予約が上手く出来ず不満を感じる住民への対応を本実証実験で検証し改善します。

コンパクトスマートシティパーク

豊能町コンパクトスマートシティを産官学民で構築できる環境

- 学**
 - 廃校活用
廃校活用として国内外の企業や大学とも連携してデジタル環境の文化形成
 - 小中一貫校
GIGAスクール環境を活用しデジタル人材育成
- 起**
 - 起業・スタートアップ育成向けインキュベーション施設
 - 大学との連携によりIT企業の促進
- 活**
 - スマートシティサービスを地域コミュニティで体験し育てる環境
 - 地域課題など起業家にとって必要な情報を収集できる環境
- 交**
 - 公園を活用して、自治体、地域住民、大学、企業のコミュニティスペースとして活用
- 防**
 - 防災スペースとして、災害時の避難などにも活用

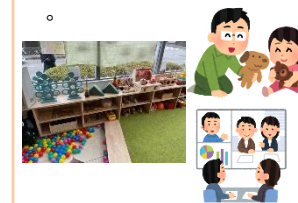


JP-LINKなどをベースとしたデータ連携

- 育**
 - リビングラボを活用して子育て支援や子育てコミュニティで「孤独感」を解消しみんなで育てる環境を構築
- 働**
 - 子育てで離職した親がリモートワークで就労できる環境を整備
- 買**
 - 地域スーパーなど連携して買物支援、忙しい子育て家庭や高齢者の支援
- 健**
 - 大手薬局と地域薬局を連携して、住民の健康相談を行い、見守る環境
- 移**
 - オンデマンド交通などモビリティを活用し移動をスムーズにする環境

(課題)

高齢化率が40%で、若者が街から流出し少子高齢化に歯止めがかからない。



若者が子育てしやすいと感じてもらえる環境整備をし、子育てコミュニティや子育てで離職した方にリモートで仕事ができる環境の整備を進めます。

(課題)

年間6千万円の交通赤字
利用者不満率50%



産官学で人流・交通のデータ分析を行い、オンデマンド交通の実証を光風台中心からスタートします。

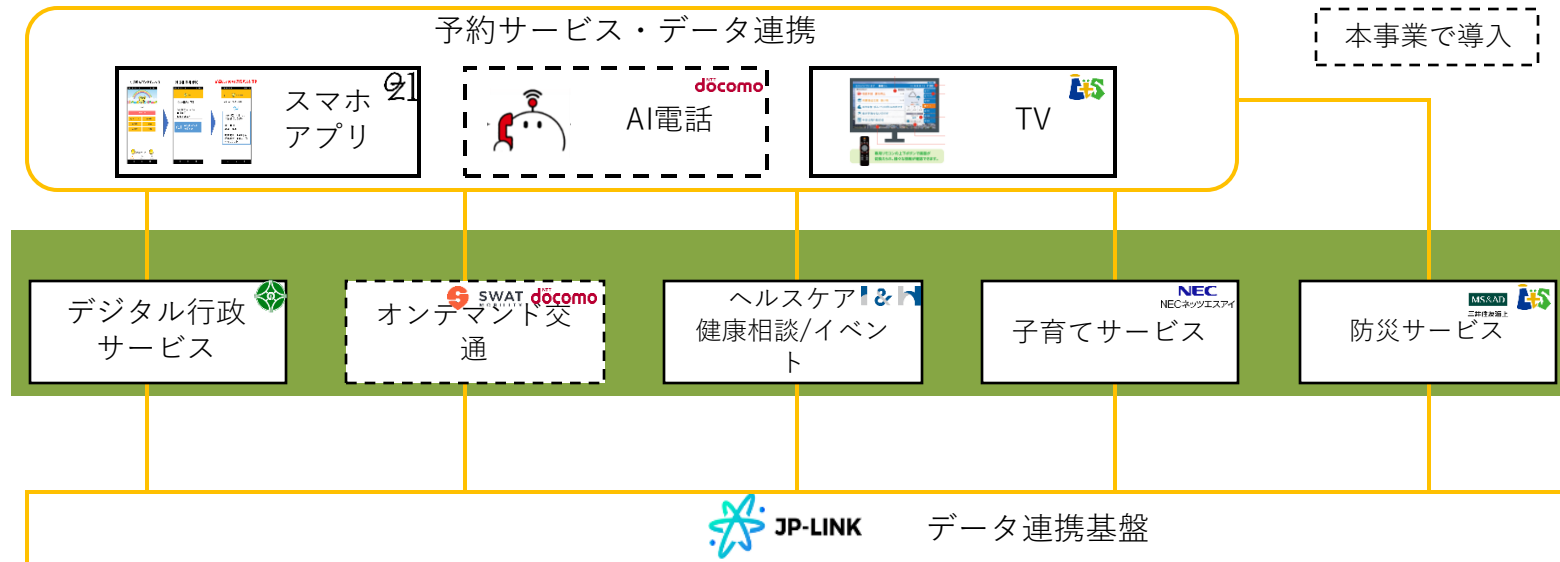


豊能町のスマートシティでは、見守り、ヘルスケア、子育て、買物支援、デジタル教育、観光、地域経済、モビリティ、デジタル行政、防災など様々なサービスを統合アプリ「とよのんコンシェルジュ」で提供を開始しました。

全ての住民のQoL向上を目指すなか、子供、高齢者、障害者など色々な人が存在し、ITを活用しきれない人が一定数です。

(実証事業の内容)

1. 本事業は、様々なサービスを「誰一人取り残されない」スマートシティサービスにするために、インターフェースの「スマホ」「電話」「TV」を活用し予約データを連携し、利便性の改善を検証します。
2. 今まで予約データや利用者の活動データは個社のデータベースに保持されていましたが、本事業で個社データベースを接続しサービスをシームレスに受けれるか検証します。



- 今回利用する各サービスは、既に商用化されたものを中心にデータ連携基盤の活用を通じて、サービスの連携を図ります。
- JP-LINKは現在豊能町のみ導入されており、実証事業でモデル化した後に、JP-LINK利用希望自治体へ展開を図ります。

健康相談イベントと連携し、ヘルスラボの予約から到着までシームレスなサービスを提供
ヘルスケアで連携確認後、防災や観光、見守りなどへ展開

ヘルスケアとオンデマンド交通の連携イメージ

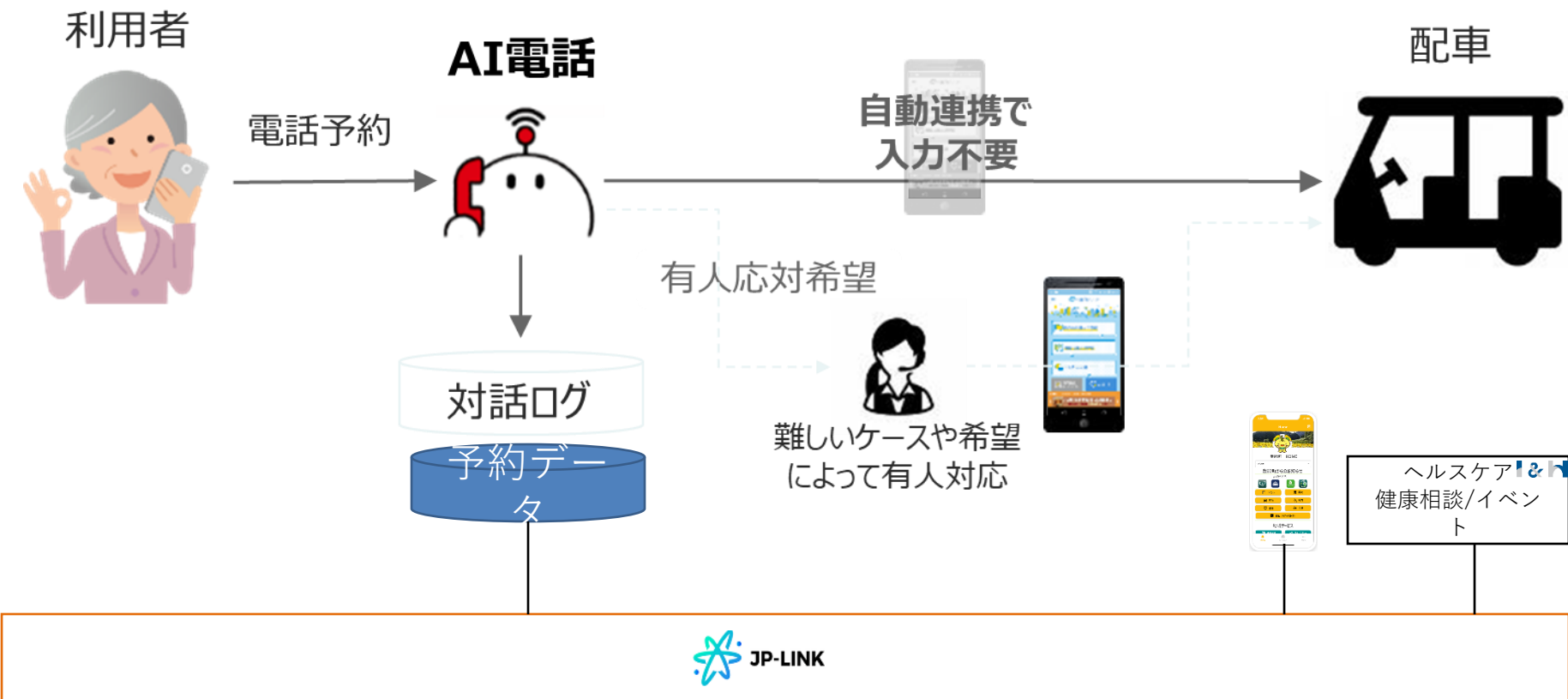


(対象分野)

交通・モビリティ	エネルギー	防災	インフラ維持管理	観光・地域活性化	健康・医療	農林水産業	環境	セキュリティ・見守り	物流	都市計画・整備	その他
○		○		○	○			○			

AIを活用した電話対応業務による自動オンデマンドバス予約

- 時間をとられがちな電話対応業務をAIが自動化
- 独自の音声認識技術により、人間らしい**自然な発話**が可能



(対象分野)

交通・モビリティ	エネルギー	防災	インフラ維持管理	観光・地域活性化	健康・医療	農林水産業	環境	セキュリティ・見守り	物流	都市計画・整備	その他
○		○		○	○			○			

CSPFC事務局からの案内

スマートシティの取組みは豊能町とCSPFCとの連携協定をもとにおこなっております。
今後月例で原課にも分科会参加を予定します。

- ・ 各原課とのMeeting希望時の流れ
 企業→CSPFC事務局→まちづくり創造課→原課
 (状況把握のため、できる限り事務局同席でお願いします。オンラインで繋ぐなど)

原課とのMeeting注意点

企業から直接のコスト提示/交渉を原課と調整は行わない。

交付金や助成金の割り当てがあるので、CSPFC事務局とまちづくり創造課で確認が必要

- * コスト提示を原課と企業単独で行うと割り当てができず、案件が止まります。
- * 助成金の場合は、CSPFCが半額補填、国が半額補填しているので、割り当てができません。
 CSPFCの補填は執行理事会および事務局での確認が入ります。
 国からの予算（補填）：
 - ・ 各省庁の基本方針に従う。（横展開向け、新規性追求、実装/実証など）
 - ・ 予算の重複は、不可事項です。（予算の2重取りは禁止。場合により法的に裁かれます）
 - ・ 条件成立しない場合は、補助額返還を求められます。
- * 企業がCSPFCに半額補填してでも行う事業がある場合は別途相談ください。

2022年 6月

2日 オンライン

9日 オンライン

(10日 セミナー)

16日 オンライン

23日 現地開催予定

30日 オンライン

横展開ワーキング仕分け開始（4月1日から各公募が始まります） 調査担当会社

事業名	担当省庁	担当企業	
自治体情報システムの標準化・共通化に向けた環境整備 （デジタル基盤改革支援補助金）	総務省	ISID/NESIC	○
全国的研究データ基盤を中核とした世界最高水準の情報インフラの整備・活用	文部科学省	真子	
公的職業訓練におけるIT分野の訓練コースの設定促進	厚生労働省		
教育訓練給付におけるデジタル分野の講座充実	厚生労働省		
DX推進施策（DX銘柄・DX認定等）を通じた人材育成促進	経済産業省	NoCode	○ 4月18日～5月17日
デジタル活用支援推進事業	総務省	CSPFC	○ ～5月13日
デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ）	内閣府	CSPFC（豊能町）	○
デジタル田園都市国家構想推進交付金（地方創生テレワークタイプ）	内閣府		追加があるか？
地方創生推進交付金（先駆タイプ、横展開タイプ）	内閣府	CSPFC（豊能町）	○
地方創生推進交付金（Society5.0タイプ）	内閣府	CSPFC（豊能町）	未
地域課題解決のためのスマートシティ推進事業	総務省	CSPFC	○
まちづくりのデジタルトランスフォーメーションの推進	国土交通省	関西電力	○：国交省へ問い合わせ
スマート農林水産業の全国展開に向けた導入支援事業 【再掲】	農林水産省林野庁 水産庁	Andeco	○

国交省：まちなかウォーカーブル予算（公園整備）

事業名	担当省庁	担当企業	
中小企業サイバーセキュリティ対策促進事業	経済産業省	(NESIC)	引き続きトラッキング。江川IPA含めて確認
観光DX推進緊急対策事業	観光庁	(おてつたび)	×
DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進による観光サービスの変革と観光需要の創出	観光庁	(おてつたび)	○
地方創生テレワーク推進事業	内閣府	NESIC	(デジ田に組み込み)
関係人口創出・拡大のための対流促進事業	内閣府	(おてつたび・ドコモ)	○ 5月23日～6月7日
日本版MaaS推進・支援事業	国土交通省	ドコモ・SWAT	○
地域公共交通の維持・活性化事業	国土交通省	ドコモ・SWAT	○
個別最適な学びを実現するためのGIGAスクール構想の推進	文部科学省	スクールエージェント	未発表
ヘルスケアサービス社会実装事業 (うちPHRサービスの発展に向けた環境整備事業)	経済産業省	スパーク	○5月9日～5月31日
住民の実感が伴う分かりやすい防災情報の発信等による安全・安心につながる流域治水DXの推進	国土交通省	三井住友・インター・ITSCOM	×
地域脱炭素移行・再エネ推進交付金 (第一弾 選考地域 発表)	環境省	関西電力・ISID	第2弾夏 (50億: 2/3)
脱炭素社会実現のための機関	環境省	関西電力・ISID	(200億)
地域・企業共生型ビジネス導入・創業促進事業	経済産業省	CSPFC	○
地域女性活躍推進交付金	内閣府	斎藤	未 (昨年4回)

会議名	日時	URL	ミーティングID	パスワード
豊能町定例会議	木曜日 10:00～12:00	https://us02web.zoom.us/j/89314973306?pwd=d25wTmVXayt6MlVDRGpuTGM3UVh3QT09	893 1497 3306	393337
豊能町CSPFCブリーフィング	木曜日 12:00～12:30	https://us02web.zoom.us/j/86786627339?pwd=UVhaK2ZSL0lnY2FaNDdoTDRYczdqUT09	867 8662 7339	915948
見守り	火曜日 17:00～18:00	https://nesic.zoom.us/j/95716504853?pwd=cWx5U21Cbmx2bC9zbFpCQUVwOGVwUT09	957 1650 4853	542034
ヘルスケア	不定期	固定なし		
子育て				
買い物支援				
デジタル教育	不定期	固定なし		
観光	不定期	固定なし		
地域経済	水曜日 13:00～14:00	https://zoom.us/j/98287834044?pwd=RDg0TmhJUkFBNWJpckplcmd0YVNwZz09	982 8783 4044	438741
モビリティ	不定期	固定なし		
インフラ				
行政デジタル	水曜日 14:00～15:00	https://nesic.zoom.us/j/99941695559?pwd=UFcybG1BaENLOUNsWFHeFRnQURFdz09	999 4169 5559	861296
防災				

分科会

1. 見守り（NECネッツエスアイ） アイテック阪急阪神 ミマモルメ
2. ヘルスケア（OZ1） Green Bioanalytics Maria I&H スパーク Y4 ウエルグループ
3. 子育て（NECネッツエスアイ）
4. 買物支援（三井住友） ビットキー
5. デジタル教育（OZ1） NoCodeJapan とよのていねい
6. 観光（OZ1） おてつたび
7. 地域経済（OZ1） Digital Platformer） とよのていねい NoCode Japan ドコモ
8. モビリティ（ドコモ） 関西電力 SWAT Mobility OZ1 アイサンテクノロジー
9. インフラ（関西電力） アンデコ 電通国際（脱炭素）
1. デジタル行政（NECネッツエスアイ） アスコエパートナーズ OZ1 電通国際 ロボットコンサルティング
11. 防災（三井住友） Green Bioanalytics イッツコム